

生駒市立幼稚園耐震化状況一覧

平成26年2月19日現在

学校名	棟名	耐震化工事の状況					診断結果 (施工済の棟は改修後の数値)		耐震化優先度調査	建築年	構造・規模		
		施工済	施工中	施工予定	不要		IS値	q値			優先度ランク	構造	階数
					診断結果	新耐震基準							
高山幼稚園	管理棟						0.05	0.16		S49.2	S	1	212
	保育棟						0.06	0.18		S49.2	S	1	304
なばた幼稚園	管理・保育棟					○				H3.3	R	2	1,198
生駒台幼稚園	※対象棟なし												
南幼稚園	保育棟			H27		111	0.30	1.2		S49.3	S	1	217
	保育棟						0.20	0.81		S49.3	S	1	217
	保育棟						0.10	0.39		S55.3	S	1	282
生駒幼稚園	管理棟	○					0.75	2.99		S52.2	S	2	360
	保育棟西					○	0.78	3.2		S52.2	R	2	686
	保育棟東	○					0.89	2.56		S53.10	R	2	156
俵口幼稚園	管理棟	○					0.87	3.5		S53.2	S	1	420
	保育棟	○					0.81	3.27		S53.2	S	1	628
あすか野幼稚園	管理室棟	○					0.94	1.28		S54.1	S	1	375
	保育室棟	○					1.33	1.83		S54.1	S	1	468
	保育室棟	○					0.80	3.2		S55.3	S	1	237
桜ヶ丘幼稚園	管理棟					○				S57.3	S	1	390
	保育棟					○				S57.3	S	1	420
吉分幼稚園	管理棟					○				S58.3	S	1	329
	保育棟					○				S58.3	S	1	280
	保育棟					○				H12.12	R	2	332
	保育棟					○				H19.1	S	2	144

※対象は、階数が2以上、または、床面積が200㎡を超えるものとする。

語句解説

★新耐震基準	昭和56年6月1日以降の耐震基準で建築されたもので、中規模地震(震度5強程度)に対しては、ほとんど損傷を生じず、大規模地震(震度6強から震度7程度)で人命に危害を及ぼすような倒壊等を生じないことを目標としています。							
★第1次診断	柱や壁の量から簡略的に評価する診断法です。建物の粘り強さを考慮していないので、2次診断を実施した場合、結果の I_s 値が変わることが多くあります。							
★第2次診断	コンクリートや鉄筋量といった柱と壁の強度と建物の粘り強さを考慮して、耐震性能を算出する診断法です。1次診断より精密な判定法になり、学校施設を耐震補強する場合に一般的な診断です。							
★ I_s 値	構造耐震指標のことで、その建物が地震にどのくらい耐えられるかを表す指標です。 第1次診断または第2次診断の結果、建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される指標で、その最小値を表記しています。 表中の(*)は、第1次診断の結果です。 文部科学省の基準では、 I_s 値が0.7未満の建物(棟)については、耐震化対策が必要とされています。							
	(I_s 値の目安)	<table border="0"> <tr> <td>I_s値0.3未満</td> <td>大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い</td> </tr> <tr> <td>I_s値0.3以上0.6未満</td> <td>大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある</td> </tr> <tr> <td>I_s値0.6以上</td> <td>大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い</td> </tr> </table>	I_s 値0.3未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い	I_s 値0.3以上0.6未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある	I_s 値0.6以上	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い
	I_s 値0.3未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い						
I_s 値0.3以上0.6未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある							
I_s 値0.6以上	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い							
★CT×SD値	CT(累積強度指標)とSD(建物形状指標)の積で、 I_s 値が高くてもこの値が低い場合は安全としない目安で、0.3以上を安全とします。1.25以上では、 I_s 値が低くても安全とし、0.3未満では I_s 値を満足していても安全としません。							
★q値	保有水平耐力の指標で、算出される建物が水平方向に受ける力に耐えられる力の指標を表記しています。 I_s 値が0.6以上でかつq値が1.0以上であれば、倒壊や崩壊の危険性が低いとされるものです。							
★耐震化優先度調査	建物の建築年、構造等から第2次診断実施の優先順位を判断する簡易な判定方法です。							
★優先度ランク	耐震化優先度調査の結果、5段階に判別された総合的な評価指標を表記しています。 ランク1が最優先に第2次診断を実施すべき建物です。							
★R	鉄筋コンクリート造の建物のことです。							
★S	鉄骨造の建物のことです。							